

テーマ：「おもしろき こともなき世を おもしろく」

～ 大庄おもしろ広場の取組みについて～

稲村 では、本日お招きしたゲストの方をご紹介します。大庄おもしろ広場運営委員会代表の大原一憲さんです。大原さん、こんにちは。

大原 こんにちは。よろしくお願ひします。

稲村 よろしくお願ひします。

大原 おもしろ広場の、大原です。

稲村 いつも大変お世話になっています。「大原さん」って呼ぶのは、何か改まった感じで、こそばゆいんですけども。

大原 そうですね。

稲村 と言いますのも、いつも私、大原さんのことをニックネームで「ピリーさん」とお呼びしているんですけども、今日も「ピリーさん」でいいですよ？

大原 はい、もう、もちろん。その方が、僕らもう心地よいです。

稲村 はい。それでは、今日はピリーさんに色々とお話を聞いていきたいと思ひます。まずは、先ほど話に出ておりました「大庄おもしろ広場」なんですけれども、ラジオを聴いている皆さんにも、ちょっと説明してもらえますか？

大原 はい、わかりました。「大庄おもしろ広場」というのは、中学校が統合し、跡地ができて、その跡地活用について、地域で話し合いをしたなかで、「何とか地域を活性化したい」とか、「地域で無いものをつくろうではないか」ということで、暫定的に利用が始まったものです。

稲村 元の大庄西中学校があった場所なんですね。

大原 はい。そうです。その場所で、平成23年にやり始めたんですけども、考え方としては「無いものをみんなで作ってみようじゃないか」とか、「世代を超えてみんなで色んなものを作っていこうではないか」という考え方で、始まりました。

稲村 なるほど。そしてオープニングでも少しお話ししたんですけども、この「ヤギと触れ合える」というのも、この広場なんですね？

大原 そうなんです。もうヤギはこの「おもしろ広場」の広告塔というか、シンボルになっておりまして……、

稲村 今、何頭ぐらいいるんですか？

大原 はい。今、4頭になりました。ひょっとしたら、お腹の中にまた1頭がいるかもわからない、という状況です。

稲村 以前に私が伺った時より増えていますよね。そもそも、どうしてこの広場でヤギを飼おうということになったんですか？

大原 はい。まず「無い無いづくし」の中で、もうほんとに（広場に）雑草がいっぱい生い茂っていたんですよ。それを「人間がみんなで刈るのは大変だな」という時に、ハタと思ったんですけども「ヤギがおったらおもしろいな。これは楽ができるかな」と。

稲村 じゃあ、「ヤギを飼おう」と言って飼いだめたんじゃないかと、「広場の雑草を何とかしなイカン」と。

大原 最初そうなんです。

稲村 そして「ヤギさんをお願いしよう」というのが、始まりだったわけですね。

大原 はい。

稲村 すごい。そしてどうしたんですか？

大原 実際に「ヤギがおったらええねんけど」って、法螺のように色んな方に言っていると、なかにやっぱりそういう……、

稲村 伝手のある人が……、

大原 ヤギがいますね。それで、ヤギを親善大使としてお借りしたという形で。

稲村 なるほど。私も以前行った時も、本当にかわいらしいヤギがいてまして。そして「尼崎の親善大使」ということで、今や、もうジワジワと人気が出てきてるわけなんですけれども。親善大使の役割も、しっかり果たしてくれています。今、大庄おもしろ広場は、実は色んなことをやっていたらしゃるんですけど、やっぱりこのヤギが、ひとつのシンボルになりましたよね。

大原 ヤギは人をつなぐ、地域をつなぐ、と。そんな感じがします。

稲村 新しいです。

大原 はい。

稲村 ところで、先ほどからお呼びしている、このニックネームの「ビリー」なんですけれども、「外国人の男性の名前？」とっていたんですけれども、実は違うらしいですね。

大原 はい。僕は学生時代からペンネームがありまして。「レオナルドイチビリ」という。

稲村 はははは。イチビリ！

大原 「イチビリ」の精神で生きていこうと。で、ニックネームで「それで呼んで」って言ったら、ある人に「長いから」って切られまして、「ビリー」になってしまいました。イチビリの「ビリー」。

稲村 なるほど。それは意外というか、なるほどですね。関西弁では「イチビリ」と言うと「お調子者」とか、「目立ちたがり屋」というか、そういうニュアンスがありますけれども、やっぱり「リーダーシップを取る人」というイメージがあります。そういう意味ではビリーさん、そうかなあ？ いい意味での「イチビリ」ですね。

大原 自分自身が、おもしろい事、やりたい事を持っている気持ちが大変だ、ということで。そういう意味では「イチビリ」なんです。

稲村 なるほど。なんか納得です。

大原 ありがとうございます。

稲村 そして、そんなビリーさん、本業は……、

大原 本業はですね、18歳の時から、子供たちを教える学習塾をやりにまして、それでメシを食いながら、子供たちと地域で楽しくやろうじゃないか、という。

稲村 それが本業ということで。塾の先生なんですね。そして以前は、大庄地区のPTA会長もして下さっていたということで……、

大原 はい。ちょうど池田の小学校の事件と、学校の統合の問題が出てきた、そういう頃に（PTA

に) になりました。

稲村 じゃあやっぱり、その地域の「顔の見える関係」とか、「安全性」とか、そういうことが話題になっていた時だったんですね。

大原 そうですね。その時に PTA の皆さんが、もうどうしようもなくなってしまった状態のなかで、混乱を収めるために「大庄ネットワーク」という PTA の集まりをつくりまして、僕らそこの事務局をやることになりましたので、「統合」にもかかわった、ということなんですよ。

稲村 なるほど。で、そこからつながって、最終的にその跡地を使っていくのに、「大庄おもしろ広場」という形でやっていこうと。みんなで行って活動の中心になっていかれたわけなんですね。

大原 はい。「子供たちのために何かできることはないか」とか、「いいもの作りたいな」という思いを、PTA の世代の方を中心に、そういうものをやろうではないか、ということで始めました。

稲村 なるほど。「大庄おもしろ広場」は、大人たちもいつも楽しくやっていますし、そこにまた子供たちもね、結構自由にのびのびと、色んなことに挑戦しているという、そういう雰囲気が出ていますけれども、この「大庄おもしろ広場」というのは、やっぱりそういう思いを込めたネーミングなわけですか？

大原 そうですね、やはり子供たちにとっても、大人にとっても、思いがこもるような言葉はないかなと思って。キーワードは「おもしろい」という言葉だったんですけども。でも、その気持ちを、結果的には、子供にはダイレクトな「おもしろい」で、大人にはやっぱり「志し」を伝えたいな、ということで……、

稲村 おお、かっこいいですね。

大原 はい。名前をつけてみました。

稲村 なるほど。そんなビリーさん達の思いが詰まった「大庄おもしろ広場」。最近の活動は、どんな感じでしょうか？

大原 まず、やはり「無いもの」をやりたい、ということで、スポーツの施設から始めまして、「ドッグラン」という、尼崎では、犬の走れる場所が……、

稲村 犬が、走りたいたけ走れる、という……、

大原 はい。そういうものをやってみたりと。それから、イベントをやりながら、地域の野菜をみなさんと親んでもらおうということで……、

稲村 いいですね。「野菜」といえば、尼崎の伝統野菜であります「尼いも」も栽培していらっしゃるんですか？

大原 そうですね。やはり、地域の子供たちに誇りを持ってもらうためには地域のものを、ということで、尼いもを育てまして、それを焼きいもにしたりして、親んでもらうようにしています。

稲村 尼崎の歴史も知ってもらえますしね。いや、それはすごくいい活動ですね。そして、この「尼いも」というと、茎とか葉っぱとかも、ちゃんと有効に活用してらっしゃるそうで。

大原 そうなんです。いもは人間が食べる、そして茎や葉っぱはヤギが食べる、と。そしてそのヤギがした糞は堆肥になって、また土に戻って行って肥料になる、そういう形になっています。

稲村 なんか本当に「学び」の詰まった「おもしろ広場」という形で、究極のエコですね。

大原 お金がかからないように、コストのかからない形を取ろうとすると、そういう「エコ」な形になっていく……、

稲村 そういう風になっていくってことなんですね。

大原 はい。

稲村 ところでピリーさん、この「大庄おもしろ広場」は、去年「公益財団法人あしたの日本を創る会」のこの会が主催する「あしたのまち・くらしづくり活動賞」の「主催者賞」を受賞されたということで、おめでとうございます。

大原 ありがとうございます。この賞はですね、我々、賞をもらうためにがんばっているわけじゃないんです。でもやはり「やっていることが、なかなかおもしろいな」ということを、皆さんに知っていただくことと、それからやはり、やってきたことを外部から評価していただくことで、色んな方に、それを持続的にやっていただける可能性としてはいいんじゃないかということで、急遽応募しましたら……、

稲村 いや、素晴らしいですね。私も、ま、ご承知だと思うんですけど、尼崎市も財政が決して、楽じゃないんですけども、やっぱり「お金が無いからできない」じゃなくて、じゃあ「無いならどうしよう」、「どうやったらできるかな」、「どんなことならやれるかな」っていうふうな発想を切り替えないと、ということ、いつも庁内でも言っているつもりなんですけど、まさに、もう……、

大原 どっちかという「お金が無いからできるんだ」という、そういう方向でいきたいな、と思っています。

稲村 ほんとですよ。いやもう……、

大原 お金が無ければ、やっぱり人は「つながって助け合っていないとだめだ」というのがあるので、絆が深まります。

稲村 いやもう、本当に素晴らしい取組みだと思いますし、まち全体でこういうことをやっぱり進めていきたいなと、今日は改めて感じました。

大原 ありがとうございます。

稲村 今日は、ピリーさんの熱い思いを、たっぷりお聞きすることができましたし、「大庄おもしろ広場」、やっぱりみなさん「一度行ってみたいな」と思われた方も多と思います。ぜひね。

大原 はい、ぜひお越しくください。

稲村 お気軽に。あ、いつなら開いているとか……？

大原 まず、第4日曜日は、朝から夕方まで必ず開いています。それから、月・火・木・金の4時から6時は、放課後学校開放として開いています。詳しくは、8月8日・9日に、百合学院で「みんなのサマーセミナー」を行いますので、そこでぜひ、詳しいことをお聞きください。

稲村 そのサマーセミナーで、何かされるんですね。

大原 そこで、「おもしろき こともなき世を おもしろく」という……、

稲村 おおっ、高杉晋作？

大原 高杉晋作のモットーを看板にしましてね、お話をしよう。

稲村 で、この「おもしろ広場」の実践も、どんどんと話をしてもらえると……、

大原 そうですね、皆さんにちょっと聞いていただいて。

稲村 なるほど。そしてピリーさんの「生き様」も聞けそうですね。

大原 はい。そうですね。「不可能を可能にする可能性を探る50分」です。

稲村 楽しみですね。皆さん、このサマーセミナーの方も、ぜひぜひ足を運んでいただきたいと思っています。

大原 はい。

稲村 今日は本当に、私もエネルギーをもらった感じがします。これからも一緒にがんばっていき
たいと思います。

大原 はい。

稲村 今日はありがとうございました。

大原 はい、ありがとうございました。

稲村 それでは、今日はこの辺でお別れです。

なお、次回からは、尼崎市内の市立・県立各高等学校の、放送部を始めとする生徒の皆さん
が、番組を企画したり、作成したりということで、そういった番組を、順にお届けしていきたい
と思います。

高校生の皆さんの、元気あふれる番組を、皆さんどうぞお楽しみに。

以 上